## 頭と心をアクティブにする授業の骨格は?

【登る力】

活用する思考力、

判断力、表現力等

【頂上】 学習内容を獲得した 授業後の子どもの姿 ・知識や技能と、それを 4 ・学びに向かうカ 【山】子どもが追究する学習課題 【麓】 授業前の子どもの姿(既有知識)

一つ一つの山が学習課題です。 山を登ること、すなわち学習課題 を解決する中で、子どもは、知識 や技能を獲得します。

頂上にたどり着くためには、登 る力が必要です。それが、資質・ 能力です。

頂上に着いた後に振り返ること で、何がわかったのか、どんな力 を使ったのか、自分の変容を自覚 することができます。あるいは、 次の山、すなわち、単元における 次の学習課題が見えます。

この①②③④が、授業の骨格です。それぞれを関連付けて明確にすることが、授業を構想することです。 おおよその構想ができたら、次の3点について振り返りましょう。

- 1 単元や題材のまとまりの中で、指導内容のつながりを意識しながら、1単位時間の授業を構想しているか
- 2 【麓】と【頂上】の子どもの状態には、どのような違いがあるか
- 3 【頂上】の子どもの状態は、記述や発話、成果物といった評価可能なレベルで具体化されているか 以上を踏まえながら、授業の骨格をねらいという形で端的に表現しましょう。

本時のねらい「Aについて、Bを活用・発揮することを通して、Cすることができる」

A【 山 】: 学習課題 B【登る力】: 資質・能力

C【 頂上 】: 学習内容を獲得した授業後の子どもの姿

## 授業で聴き合う関係性が育まれると、どんなよいことがあるの?



作 成 協 力:新潟大学大学院教育学研究科 准教授 一柳智紀 平成 29 年度 五泉市小中学校学習指導部会

参考・引用文献:白水始「資質・能力を育む授業づくりの5ステップ」(『授業の研究No.195』、

新潟大学教育学部附属新潟小学校、2015年)

奈須正裕「『資質・能力』と学びのメカニズム」(東洋館出版社、2017年)

田村学「授業を磨く」(東洋館出版社、2015年)



# 聴き合う関係性をつくり 頭と心をアクティブにする 授業デザイン



教師がよい聴き手となっていますか?

聴いている子どもに注目していますか?

わからない子どもを一人ぼっちにしていませんか?

教師がしゃべりすぎていませんか?

自身の授業を振り返っていますか?





五泉市教育委員会 平成30年3月

# 学び手がどのように学ぶかをイメージして、子どもと共に授業をつくろう



## 実現したい学びの姿

課題を設定・把握する

ゴールとプロセスの見通しをもつ

教科らしい活動で追究する

展

### 具体的な子どもの姿のイメージ

あれっ、どうして?

○○がわからないな

学びたいことを焦点化し、見通しをもつ子ども

すごいなぁ

◇◇してみたい!

## 教師の働き掛けの一例

## ★子どもが何に向かって学んでいくかをイメージして

#### 既有知識や素朴な考えを活かし、 学習内容に向かうようにギャップを感じさせる

- T「昨日まで学習してきたことを使って、今日の問題はできそう?」
- T「みんなの予想は○○なんだね。実際は・・・」
- T「自分の考えと友達の考え、いろいろでバラバラだね」
- T「みんな(あなた)の目標は○○だったね。現状は、どうかな?」

#### 既有知識と関係付けさせ、見通しを引き出す

T「この時間の終わりには、どうなっていたいかな? |

T「今までに学んだことを用いて解決する方法はないかな? I (プロセス)

繰り返し対象や友達とやり取りしながら追究する子ども

この数量の関係を図にして考えてみると…

資料Aからは○○、資料Bからは▲▲ということが言える

今日はみんなで○○を考えたいな

前みたいに☆☆すればできるかな



7,3

どうして〇〇と言えるの?考えをくわしく聞かせて



知識を相互に関連付けてより深く理解する子ども 情報を精査・解釈し、考えをつくる子ども 思いや考えを更新しながら創造する子ども

そうか。結局、AとBは、Cということなんだ

この文章って、こういう意味や働きがあったんだ。 だったら、テーマについての自分の考えは…

いいこと考えた!この部分を○○してみればよさそうだぞ

#### ★子どもが何にどのようにアプローチしていくかをイメージして

#### 対象とかかわらせながら、追究を支える

【対象】子どもが学習内容を学ぶための人・もの・こと(リソース)

- ◆国語:言葉、言葉を用いた自他の表現…
- ◆質数·数学·数量。図形…
- ◆生活: 身近な生活、体験…
- ◆図工・美術:材料や作品、出来事…
- ◆保健:健康で安全な生活における課題や情報・・・・◆技術:技術の開発・利用の場面・・
- ◆家庭:家族や家庭、衣食住、消費や環境における生活事象・
- ◆外国語: 外国語、外国語の背景にある文化··· ◆特別の教科 道徳: 道徳的価値にかかわる事象·

◆社会:社会的事象、資料…

◆理科:自然の事物・現象··

◆音楽: 音や音楽、自他の表現·

◆体育:運動やスポーツ、自他の動き…

◆特別活動:自己及び集団や社会の問題、活動… ◆総合:実社会・実生活の中の問題、体験…

#### ★子どもがどのように深めていくかをイメージして

#### 考えを比較・分類させたり、 関係を問い返したりする

- T 「これらの考えに、共通することは? |
- T「みんなの考えをつなげて考えると、どういうことが言えそうかな?」
- T「どうすると、より自分のイメージが表現できそうかな?」
- T「ここまでわかったんだね。続きはみんなで考えてみよう」
- T「どうしてそう考えたの? |

### ★子どもが何を振り返って次につなぐかをイメージして

#### 「学んだ事実」「学んだ方法」「自分の変容」等を 振り返る場を設定する

- T「わかったことと、わからなかったことは?」
- T「この学習で自分が使えると思った便利な方法(考え方)は?」
- T「この学習を通して、自分が変わったことは?」

### 聴き合う関係性を育むために、 どの場面でも教師が行うこと

#### 学びの様相に耳を傾け、 聴き手のモデルとなる

○子どもはどのように考えているのか (考えを聴く) ○子どもはどこからそう考えているのか(背景を聴く) ○子どもの考えはどこにつながるのか (つながりを聴く)

#### 聴くことを求める

T「どういうこと?少しくわしく聴かせて?」 T「○○さんが『わからない』って言ったことわかった? 自分の言葉でこうじゃないかなって言ってみて」

#### 困ったときに いつでも相談できる 仲間、空間、時間を保障する

- T「わからないことや確かめたいことは、友達と相談 していいからね」
  - ・机の配置 (コの字、班)
  - ・立ち歩き、ペア、グループ
  - ・一人一人が考えを表現、共有できる道具

#### 聴き合う場の在り方を伝える

- T「○分まで聴き合う時間です」
- T「ペアの人が話したら『なるほど』とか 『ここ詳しく教えて』などと、反応を返して あげようね」

#### 聴いて考えたことを共有する

- T「今、○○さんは~と言ってくれたけど、みんなは どう思う? 1
- T「○○さんの言ってくれたことにつなげられる かな?」
- T「○○さんの言ってくれた考えは、自分の中に ありそう? |





振り返る



#### 自分の学びを意味付けたり、価値付けたりして 次につなげる子ども

わかったことは○○で、わからないことは▲▲だ。次回は~

☆☆という方法 (考え方) が使えると思う。 なぜなら、~

この学習をしてから、~できるようになった